

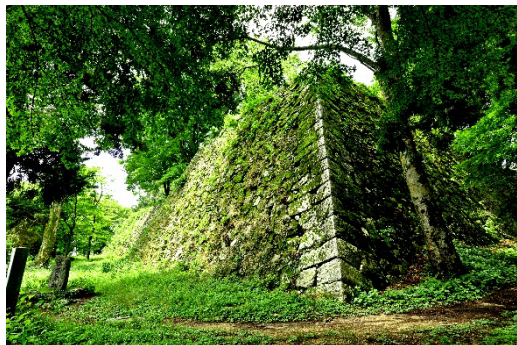
高取町
生涯活躍のコミュニティづくり
実施計画

令和4年3月

高取町生涯活躍のコミュニティづくり実施計画

1. 本計画の趣旨

- 高取町では、昭和25年に9,936人のピークを迎えた人口も、恒常的に減少を続け、平成27年には7,195人となり、令和4年4月から過疎地域に指定されることとなり、コミュニティの維持や労働者の不足などの課題を抱えている。
- 令和元年に実施した住民アンケート調査の結果では、本町から転出しようとする理由は、「仕事をする場所が遠いから」が35.2%を占め、町内でいかに就業を確保することにより転出を食い止め、定住したくなる町にするかが課題となっている。
- そのような中、全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」高取町の実現に向けて、「交流・居場所」「活躍・しごと」「都市部との人材循環」といった機能を有したコミュニティづくりを推進するため、本計画を策定する。



2. 検討課題

- 町内の事業所や地域・地区は、人手不足や担い手不足に悩んでおり、これまで担い手となってきたシルバー人材センターや社会福祉協議会ボランティアでは、メンバーの減少・高齢化・固定化が進んでいる。
- 一方で、高齢者や子育て中の女性、介護をしている人など、働きたいけど働けない町民がいることから、「しごとコンビニ」導入により、双方の課題解決を図る。

3. 検討体制

- **庁内体制**については、調整会議（町長・副町長・教育長・課長級出席）での説明により、庁内周知・連携を図った上で、各課にヒアリングを行った。
- **庁外連携**については、シルバー人材センター及び社会福祉協議会や商工会と連携して本事業について検討した。
- **調査**については、町内の事業所及び町民に対するヒアリング調査を実施し、現状と課題を把握した。
- 「しごとコンビニ」の**先進事例を視察**し、実際の運営方法や課題等を把握した上で、高取町の実状に合わせた形を検討する参考にした。

4. 調査結果

【調査対象】

- 町内の事業所：21事業所（経済センサスを基に選定）
町内産業の特徴に鑑み、製薬、医療・福祉、農業を重視した
- 町民：42名
子育て中の女性、高齢者（50～70代）
※新規就農者は昨年度までにヒアリング済み

【調査事項】

- 事業所に対する調査：事業内容、課題、出したい業務等のニーズ
- 町民に対する調査：時間、時間帯、場所、収入、内容等の希望
：自身や身の回り、地域の課題

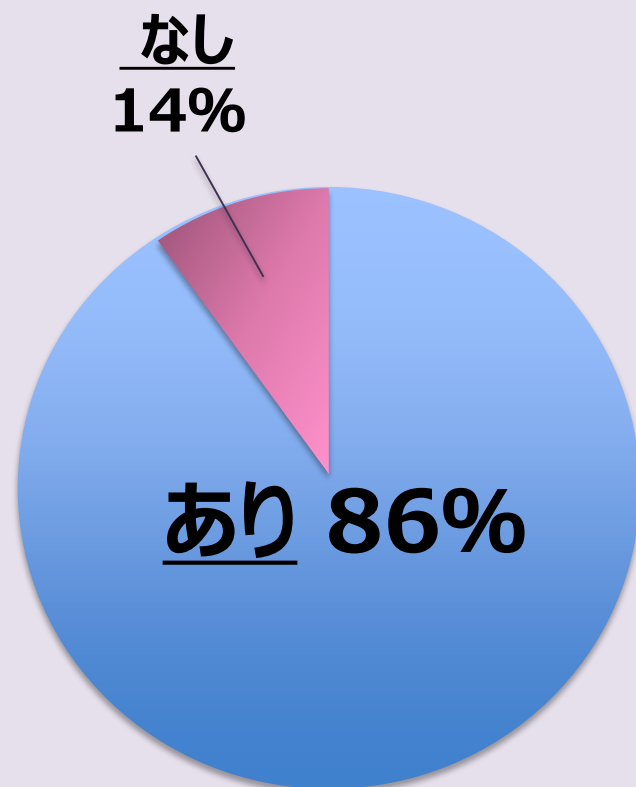
※庁内各課、シルバー人材センター及び社会福祉協議会や商工会のヒアリングも実施した

4. 調査結果

【調査結果の概要】

- 事業所は、人手不足や、新たな雇用への過重負担感、人手不足に伴う事業への影響（事業の拡大や継続・承継の困難）等の課題がある。
- 地域は、担い手が不足し、行事や地域の維持管理等に影響が出ている。
- シルバー人材センター・社会福祉協議会（ボランティア）は、担い手が高齢化・固定化し、足りなくなってきている。
- 子育て中の女性や高齢者等は、短時間、都合のいい時間に働きたい、という希望がかなえられていない。お金だけでなく、人の役に立ちたい、つながりが欲しい、気分転換したい、といったニーズもある。
- 町は、既存のコミュニティにつながない町民との接点を探している。

ニーズはあるか



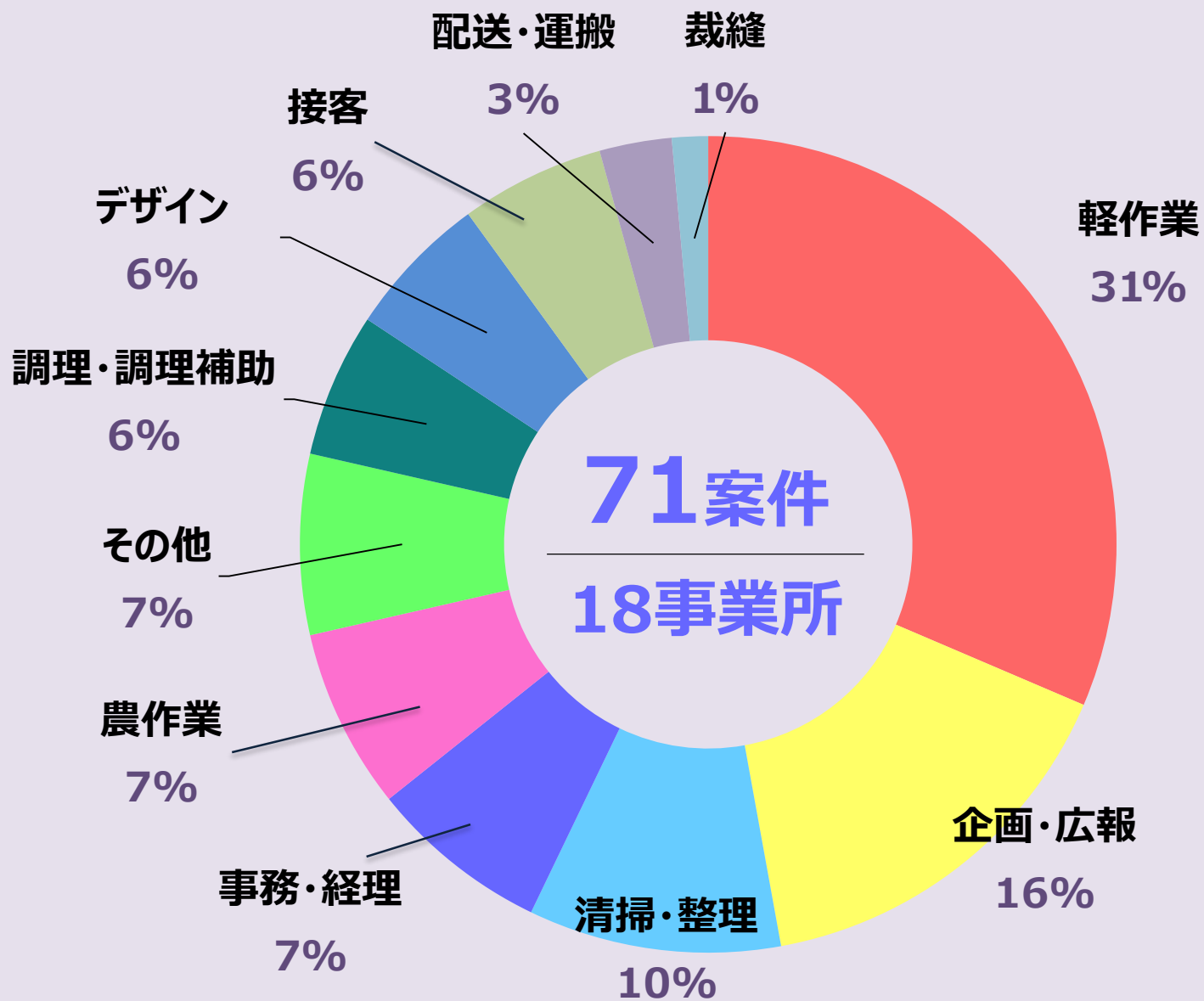
●「ニーズありの理由」の主なもの

- ・経営者が製造に集中できるよう、他の仕事を任せたい。
- ・その仕事を、正社員や職人にさせると、人件費が高く。
- ・新規事業を始めるための、仕組みづくりに役に立つ。
- ・特に、若い人に仕事をしてもらうことで、自社を知ってもらい、今後の仕事にもつなげていきたい。
- ・経営者がパフォーマンスを上げるために、休みを取りたい。
- ・コロナで対面でのやり取りができないので、対策をしておきたい。
- ・高齢化しているメンバーのフォローや、若返りを図りたい。
- ・慢性的な人手不足を解消し、ひっ迫した現場を改善したい。
- ・仕事を生み出す力をつけて、売上の低迷から脱却したい。
- ・社会や地域に貢献をしたい。
- ・雇用するまでもない単発案件での、人材を確保したい。
- ・今すぐにも働いてもらえると、楽しいと思う。

●「ニーズなしの理由」の主なもの

- ・自分の代で、事業終了予定であるため、規模を縮小している。
- ・自分で、できる範囲の仕事をしていくつもりなので。

事業所の声：ニーズ（作業・業務ジャンル別）



しごとのニーズ

事業所等の課題と希望

- ・ 人手が必要で募集をするが、応募がない。
- ・ 人手は必要だが、雇用するほどの体力はない。
- ・ 人手が足りず、事業の拡大に手をつけられない。
- ・ 人手が足りず、事業継続が厳しい。

- ・ 必要な時に必要な分だけ手伝ってもらえると助かる。
- ・ 時間ではなく成果に対する報酬だとありがたい。
- ・ 働いてくれる人が町民だと、安心できる。
- ・ 町で商売をしているので、町に貢献したい。

受け手となってきた方々の状況

●シルバー人材センター

- ・ 草刈りニーズが非常に多いが、登録者の高齢化が進み、担い手不足で断るケースもある状態。
- ・ 町民からもシルバー人材センターだけでは間に合っていないという声が多数ある。

●社会福祉協議会

- ・ 担い手不足。
- ・ 無償ボランティアでは動かない層も増えてきており、有償ボランティアの検討も必要。

●具体的なしごとのニーズ

< 農業 >

果物や野菜の収穫・選別・出荷作業、電気柵の維持管理等、大きな農家の農作業管理(デジタル化)

< 町内事業所 >

商品の組立、封入作業、事務、デザイン、商品モニター、SNSの更新、ブログの更新、ホームページの更新、商品企画、ニュースレターの作成、草刈り、ネットショップの運営・管理、建築(生コンをならす・流す、材料を運ぶ等)、木工品の面取り、製薬会社の季節労働、商品利用時の写真や動画の提供、プラスチックのバリ取り、シール貼り、文書作成、連絡・調整

< 個人 >

草刈り、庭木の剪定、竹を切る、買い物代行や同行、子どもの一時預かり、家事全般(料理・掃除・整理整頓等)、高齢者のちょっとしたお手伝い、高齢者の話し相手、移動、重い荷物を運ぶ

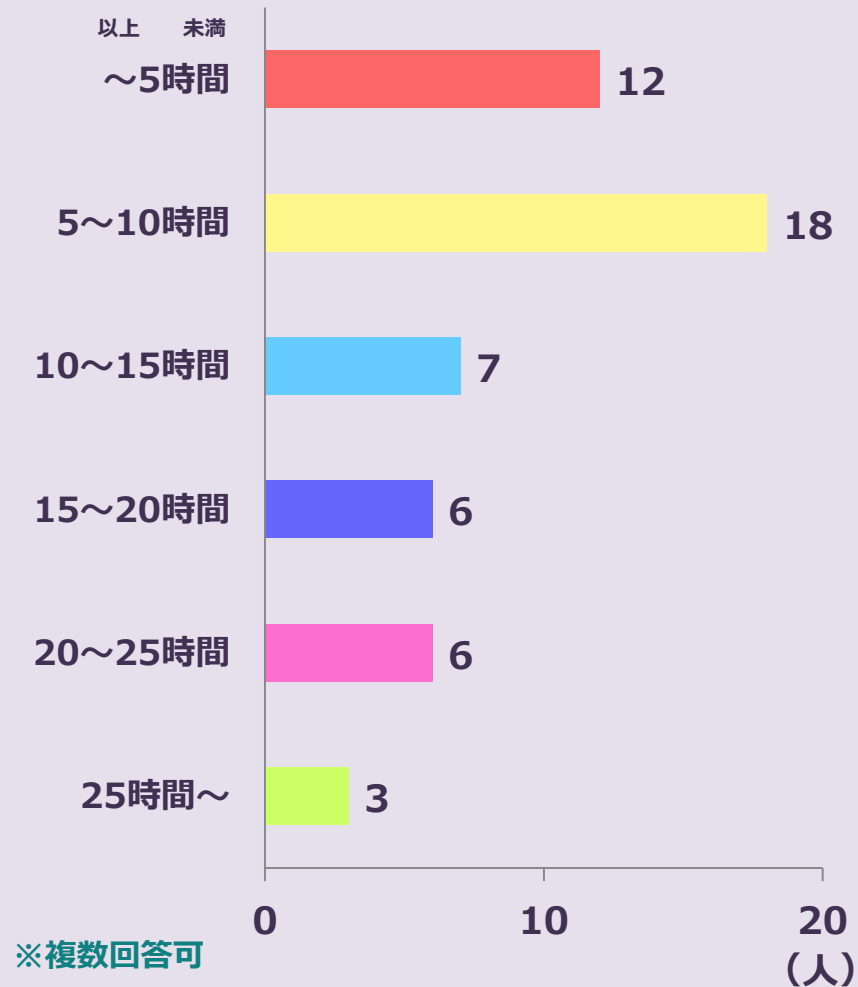
< 役場 >

役場の仕事(事務作業、会議音声の文字起こし等)、古墳の発掘(教育委員会)、道の清掃、観光関係の仕事(情報発信やイベントの手伝い等)、ウェブサイト「和になる高取」のインタビュー、インスタ更新

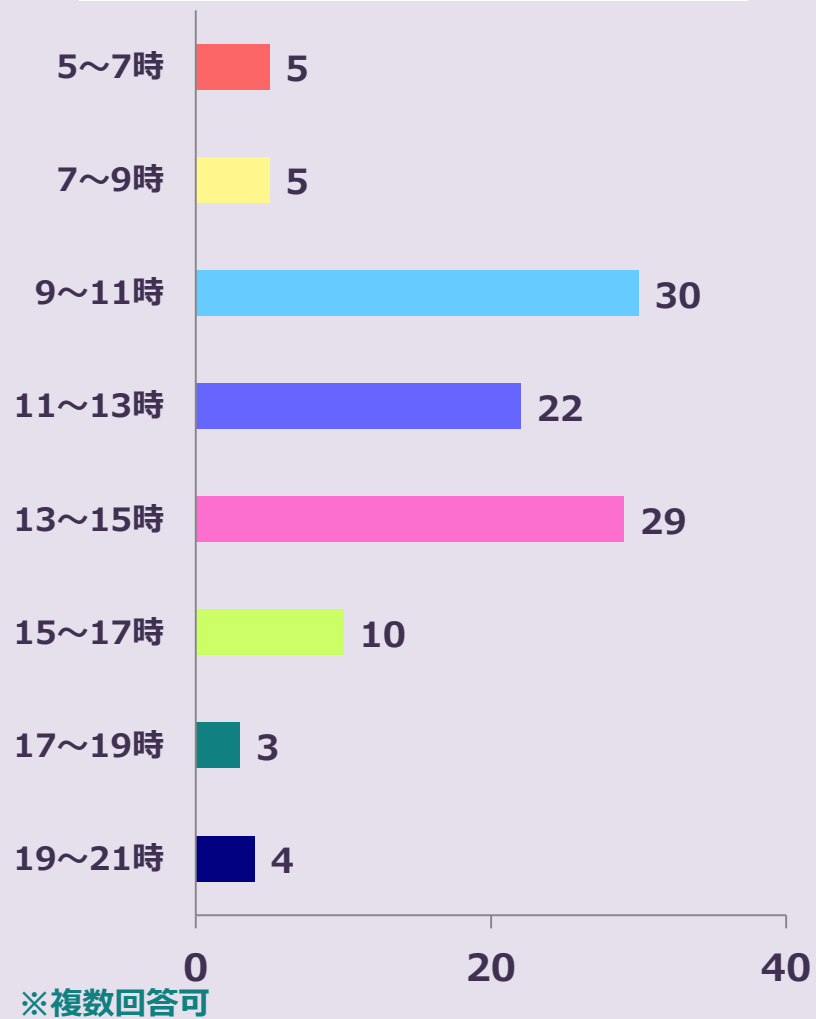
※対象者自身の意見と、こういうところにニーズがありそうという意見も加えている。

シルバー人材センターや社会福祉協議会と連携することで、より地域の課題解決につながると考えられる

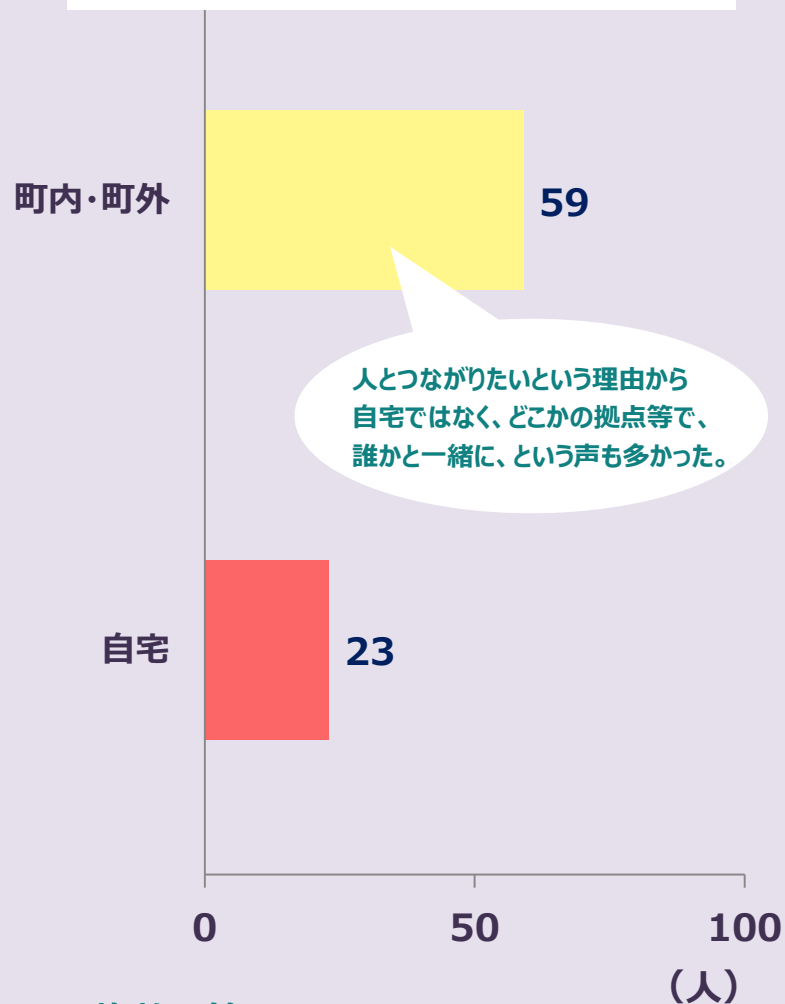
週あたりの働きたい時間数は



1日の働く時間帯は

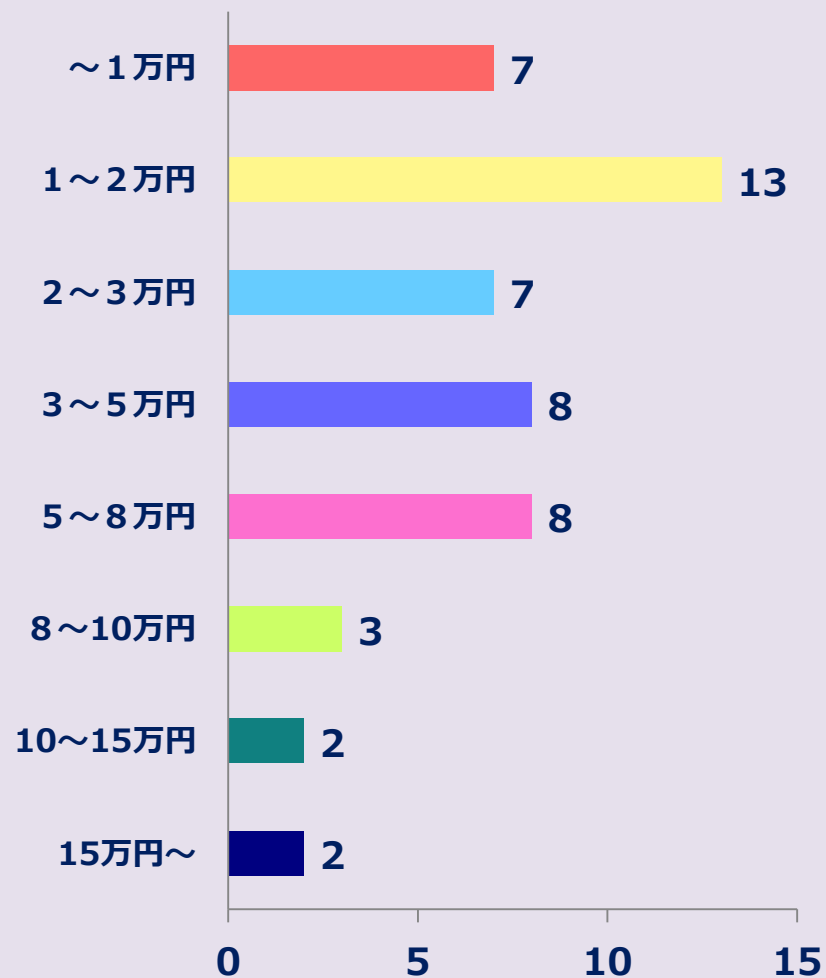


働く場所は



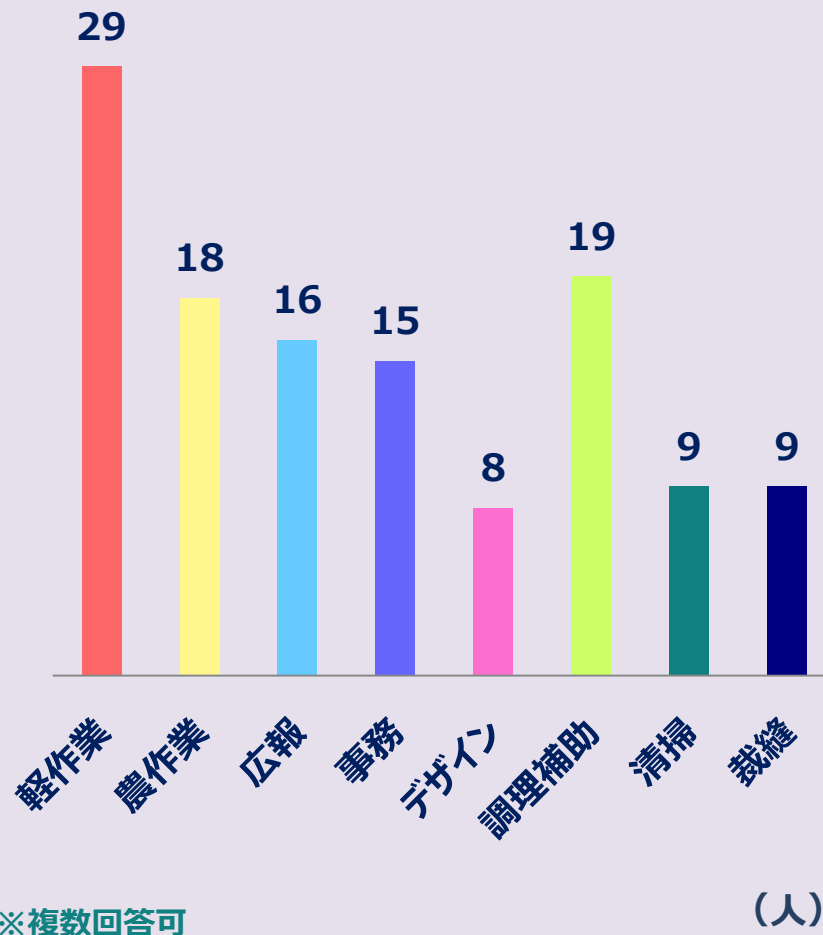
※複数回答可

希望する月の収入は



※複数回答可

希望するしごと内容は



●「希望するしごと内容」の主なもの

- ・勉強会でパソコンが使えるようになったら、ブログ作成等をしたい。
- ・座ってする仕事は苦手なので、体を動かしたい。
- ・デザインは勉強したことはないが、やってみたい。
- ・POP作成や、パッケージデザイン。
- ・一度工場で、働いてみたい。
- ・企画など。
- ・農作業は、室内であればOK。
- ・野菜を育てているので、勉強のために農作業をしたい。
- ・これまでやってきたこと以外のことをしたい。
- ・家でもできそうなので、軽作業が良い。
- ・体力維持のためにシルバーで仕事をして、しごとコンビニでは、体を使うこと以外の仕事をしたい。
- ・ブログ記事の作成や、更新。
- ・コンピュータ教室の手伝いができる。
- ・子どもが大好きなので、いくらでも相手ができる。
- ・人と接する仕事をしたい。
- ・自宅でできるので、事務系のデータ入力が良い。
- ・何でもやってみようタイプなので、特に嫌なものはない。
- ・体を使うのもたまには良い。
- ・商品企画から、デザインまでできる。
- ・工場系（時間管理が厳しく、同じ作業が続くもの）以外。
- ・やったことがない、色々な仕事に挑戦したい。
- ・人に喜ばれる仕事をしたい。
- ・チラシやポスター作成はできるが、できれば新しいことをしてみたい。

5. 取組の方向性

- 課題解決の仕組みとして、「しごとコンビニ」に取り組む。
- シルバー人材センターや社会福祉協議会と連携し、高取町らしい仕組みを構築する。
- 「活躍・しごと」を通じたコミュニティづくりという面からも取組を進め、既存のコミュニティに参加していない町民のフォローにもつなげる。
- 合わせて、「しごとコンビニ」を実施するに当たっては、リアルで集い、仕事をしたり、学んだり、交流したりできる拠点が有効であるため、その開設を検討し、「交流・居場所」機能を、さらに促進する。
- 「しごとコンビニ」推進の財源確保のため、企業版ふるさと納税を募集・活用し、また、都市部の企業（大手メーカー）人材と協働して、「都市部との人材循環」の下で事業を進める。

6. スケジュール

【令和3年度】

- ・シルバー人材センター等と連携し、「しごとコンビニ」の実施主体となる法人を設立した。
- ・マネージャーを会計年度任用職員として公募・採用した。
- ・年度内に試験的な運用を行う。
- ・企業版ふるさと納税の募集や、都市部の企業人材との連携を行った。

【令和4年度】

- ・事業所および町民向けの説明会や広報、訪問活動等により、仕事および登録者を集めて、「しごとコンビニ」事業を開始する。
- ・コミュニティのコーディネートについては、役場担当者がその役割を担いながら、人員配置についても検討していく。
- ・公共施設の空きスペースを活用して事業を開始し、実施する中で、課題や利用者等の要望を踏まえ、遊休施設の活用も念頭に置きながら、拠点についての検討を行っていく。
- ・地方創生推進交付金等の活用（令和5年度以降）についても検討する。
- ・企業版ふるさと納税の募集や、都市部の企業人材との連携を、継続して進める。

7. 今後に向けて

- 今回の取組を契機として、令和4年度以降、「住まい」「健康」の要素を含む、高取町全体での生涯活躍のまちづくりの検討を開始する。
- その際には、地方創生推進交付金や地方創生拠点整備交付金等の活用も視野に入れ、計画内容の実現に向けて推進する。
- そういった取組を通して、女性や高齢者等が活躍でき、全ての人の望む生き方を実現するまちづくりを進め、広く発信することで、高取町のファンを増やし、転出の抑制や転入の増加につなげる。